

2019年度 学校法人辻料理学館
辻調理師専門学校 辻製菓専門学校 学校関係者評価委員会

報告書	
日 時	2019年11月9日(土) 14時00分～16時10分
場 所	辻調理師専門学校 本館2階 教室
出席者	<p>【学校関係者評価委員】</p> <p><u>第1号委員 在校生保護者</u> 松成 勝 (辻調理師専門学校 在校生 保護者) 植田 美恵 (辻製菓専門学校 在校生 保護者)</p> <p><u>第2号委員 卒業生委員</u> 伏木 和毅 (株式会社日総フーズサービス 代表取締役) *副委員長 竹入 博人 (hoisam China TAKE 店主)</p> <p><u>第3号委員 業界関係者</u> 富澤 利加 (株式会社 HRO ハイアットリージェンシー大阪 人事部 部長) 辻岡 久味 (株式会社ホテルグランヴィア大阪 総務部 総務課 担当課長)</p> <p><u>第4号委員 高等学校関係者</u> 銀杏 久子 (学校法人淀之水学院 昇陽高等学校 進路指導部長) 山下 善啓 (大和高田市立高田商業高等学校 教頭)</p> <p><u>第5号委員 地域有識者</u> 宮崎 哲治 (株式会社りそな銀行 阿倍野橋支店 支店長) *委員長 浅野 京子 (大阪市阿倍野区役所 教育支援担当課長 兼 大阪市教育委員会事務局 総務部阿倍野区教育担当課長)</p> <hr/> <p>【学校側出席者】 辻 芳樹 (辻調理師専門学校／辻製菓専門学校 校長) 山田 研 (辻調理師専門学校／辻製菓専門学校 校長特別補佐) 棟方 浩一 (学校法人辻料理学館 法人本部 本部長) 尾崎 一正 (辻調理師専門学校 教職員代表) 稲垣 周治 (辻製菓専門学校 教職員代表)</p>
議 題	自己点検・評価結果について
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員紹介 3. 校長あいさつ 4. 配布資料の確認 5. 委員長等の選出 6. 議事 自己点検・評価結果報告 (法人本部長、各校教職員代表) (1) 教育理念・目的 (2) 関係法令の規程・基準への適合 (3) 基本指標 (4) 教育(カリキュラム、授業計画、教職員研修) (5) 就職 (6) 組織・管理運営 (7) 学生の受け入れ (8) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献 (9) 財務 意見交換(自己点検・評価に対する意見・提言等) 7. 校長あいさつ 8. 閉会

評価	意見・要望
(1) 教育理念・目的	
建学の精神のもと、教育理念、将来構想を掲げ、教職員間で共有しながら、調理師および製菓衛生師の養成に積極的に取り組んでいる。	
(2) 関係法令の規程・基準への適合	
非常に適正に法令等を厳守できている。自己評価の実施および問題点の改善についてPDCAサイクルがしっかり展開されている。	
(3) 基本指標	
<p>「在学率・退学率」、「出席率」、「就職率」については、概ね前年度より改善されており、適切に対応している。一部に目標達成に至らなかった学科・学年があるため、引き続き改善に向けた取り組みが必要である。辻調理師専門学校については、進級するにつれて出席率が低下する傾向があるため、検証と対策が求められる。</p>	<p>退学率はかなり低いと思うが、高校としては送り出した生徒全員に卒業してほしいという気持ちがある。</p> <p>ミスマッチによる退学の原因は高校側にも責任があり、進路指導については検討が必要である。</p> <p>ピアサポートは自信のない生徒にとっても非常に有効だと思うのでぜひ続けてほしい。</p> <p>退学者を少なくするという意味で、保護者が授業を見学する機会の提供を望む。</p>
(4) 教育(カリキュラム、授業計画、教職員研修)	
<p>教育活動については、教育課程編成委員会の意見を反映しながら、科目間の体系づくりやシラバス上の工夫などカリキュラムの改善に向けて全学的に取り組んでいる。</p> <p>教職員研修については、段階的な育成システムを構築し、専門分野における実務研修や指導力の修得・向上のための研修、SD活動などが計画的に実行されている。</p>	<p>時間設定をして実習に取り組むなど生徒が目的意識をもって取り組めるような授業を望む。</p> <p>チームワークでは個々の失敗要因を把握しづらいため、本人が自覚できるよう改善を望む。</p> <p>在学中に現場の仕事の流れや厳しさを体験、実感できるような機会の提供を望む。</p>
(5) 就職	
就職支援の体制は整備されており、学生相談および企業への対応も適切になされている。「従業員育成モデルプラン」を学生に開示するなど早期離職の防止についても積極的に取り組んでいる。	<p>世間では就職説明会や就職試験の時期が前倒し傾向にあるが、時期を早めることでミスマッチにつながる可能性もあるため考慮する必要がある。</p> <p>今のインターンシップ制度をより実用的なものにするため、インターンシップに行った学生の声を集めて企業側に要望を出していただき、学校と一緒に改善に取り組んでいきたい。</p>
(6) 組織・管理運営	
学校法人の理事会を中心に、意思決定の組織が形成され、それぞれが適正に運営されている。	
(7) 学生の受け入れ	
入学選考委員会が組織され、学生の募集、選考については適宜検討がなされ、コンプライアンスを遵守し、適正に運営されている。	人材確保が目的になっている学校が多い中、生徒をしっかり人物評価したうえで入学させて育成するという意味において、適正に入学選考が行われている。

(8) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献	
地方公共団体と連携して地方創生や町おこしに貢献するほか、世界規模の料理コンクールの審査や会場提供による運営協力を行うなど、学校の教育資源を活かした社会・地域貢献に積極的に取り組んでいる。	<p>地域に開かれた学校として夏休みなどに近隣の方や子供が学校を見学できるような機会の提供を望む。</p> <p>子供たちが辻調に行きたいと憧れるような取り組みを学校と連携して行いたい。</p> <p>災害に備えた防災訓練や災害時の帰宅困難者への対応など、区役所と学校が一緒になって取り組めることがあれば検討いただきたい。</p>
(9) 財務	
潤沢な自己資本を蓄積し万全の財務基盤である。収支については均衡を図るべく、改善が求められる。	よりよい設備、よりよい教育環境を整えていくこと、業界をさらに牽引していくという意味でも、利益をさらに上積みできるような取組みを望む。

作成日 令和元年11月20日